

製鉄記念室蘭病院訪問リハビリセンター

佐久間美香言語聴覚士

## 認定訪問療養士として活躍

製鉄記念室蘭病院訪問リハビリテーションセンターの言語聴覚士、佐久間美香さん(31)が、日本訪問リハビリテーション協会の「認定訪問療養士」に認定された。同センターによると、西胆振管内では言語聴覚士では唯一の認定者。佐久間さんは「これまで以上に、自宅で生活をする患者さんの力になれば」と話し、患者の機能改善を目指して精力的に取り組んでいる。

同管内では、寝たきりとなったお年寄りや「自宅で最期を迎えたい」という末期がん患者など、自宅での生活を望む人が徐々が増えてきているという。合わせて、言語や嚥下機能に障害を抱えた患者も、必然的に増えている状況だ。

このため、居宅介護サービス計画(ケアプラン)に基づいて、通院が難しい人や、自宅でのリハビリテーションを望む患者らのリハビリ分野でも、「認定訪問療養士の言語聴覚士は、貴重な存在」(村岡洋平・同センター所長)という。

同市本輪西町5の西澤治廣さん(75)も佐久間さんの治療を受ける一人だ。西澤さんは4年前、仕事で屋根

の雪止めを設置していたところ、8畳下の地面に転落。頭部外傷などで生死をさまよったが、在宅生活が送れるまでに回復した。現在は週1回、自宅のベッドサイドで、佐久間さんから訓練を受けている。

寝たきりの生活を強られる西澤さんだが、「自分の思いを言葉で表現できるよう、少しでも以前の状態に近づけるように」と願う家族の思いも受けて、「(気管切開後も声が出せる)スピーチカニューレを用いた発声」を目標とする。現在は、口輪筋のもみほぐしや、肩首周囲の筋拘縮を緩めるリハビリなどに取り組んでいる。

言葉によるコミュニケーションや、嚥下に問題を抱える患者の中には、西澤さんのように、通院が難しい人もいる。佐久間さんは「在宅で生活したい、とする患者さんの希望に合わせて、しっかり取り組み、少しでも在宅医療の受け皿になれば」と話している。

(松岡秀宜)

「在宅医療の受け皿に」



西澤さん(手前)の機能改善に向け、リハビリ指導する佐久間さん